感染症発生動向調査
平成23年第7週
（2月14日～2月20日）

京都市感染症週報

http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/soshiki/8-5-5-0-0_3.html

京都市感染症情報センター
（ 京都市衛生環境研究所 ）

◆ 今週のコメント

・ **レジオネラ症**の報告が1例（男性，60歳代）あります。本年の累積報告数は2例で，病型はともに肺炎型，推定感染地域は国内1例，タイ1例，推定感染経路はともに不明となっています。

・ **梅毒**の報告が1例（男性，30歳代）あります。本年の累積報告数は2例で，2例とも，推定感染地域は国内，推定感染経路は性的接触（同性間）となっています。

・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は，8.87（594例）で，第4週（平成23年1月24日～30日）をピークに減少しています。年齢群別報告数をみると，0歳～14歳が360例（60.6%）で，冬休み期間が終了した第2週（平成23年1月10日～16日）以降，割合が上昇しています。
京都市衛生環境研究所において，第1～7週に採取された検体から分離検出したインフルエンザウイルスの型別割合は，AH1pdm型が84.2%（32例），AH3型が15.8%（6例）となっています。

◆ 今週のトピックス：＜感染性胃腸炎＞

感染性胃腸炎の定点当たり報告数は，8.10（324例）で，第2週以降，過去5年平均値を上回る報告数で増減しています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

・**四類：レジオネラ症（肺炎型）1例**（第6週分）【1月以降の累積報告数 2例】
・**五類：梅毒（早期顕症Ⅱ期）1例**【1月以降の累積報告数 2例】

定点把握の主な感染症

（市内定点数　インフルエンザ定点67，小児科定点40，眼科定点10，基幹定点1）

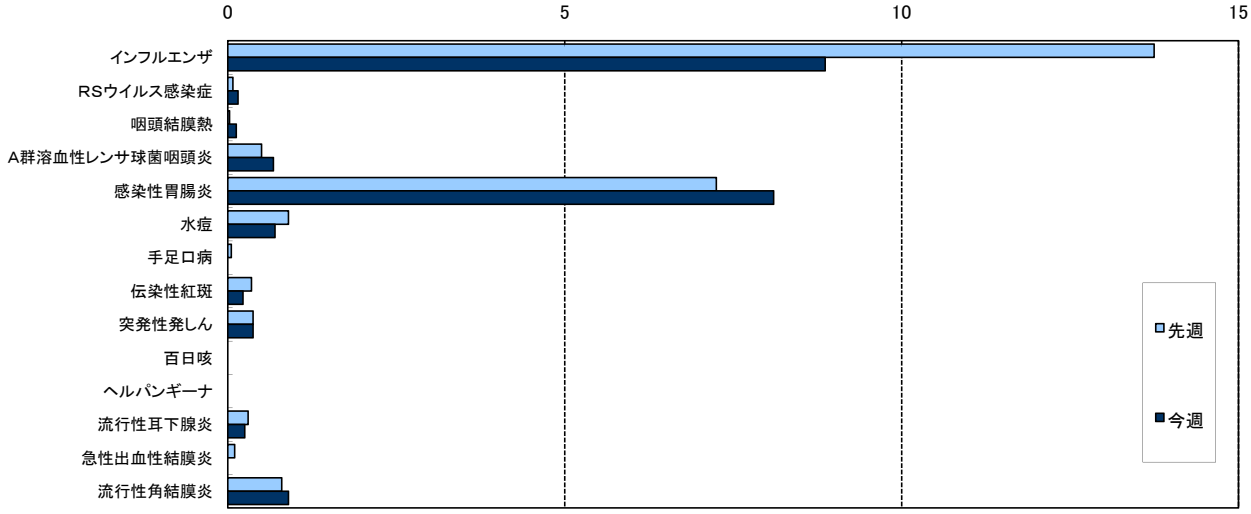
定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
ｲﾝﾌﾙｴﾝｻﾞ	インフルエンザ	8．87	594
小児科	① 感染性胃腸炎	8．10	324
（降順5位まで）	② 水痘	0．70	28
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0．68	27
	④ 突発性発しん	0．38	15
	⑤ 流行性耳下腺炎	0．25	10
眼科	流行性角結膜炎	0．90	9

【次ページ以降の主な内容】
発生状況の概況グラフ　/　今週のトピックス：＜感染性胃腸炎＞

（注）京都市のデータは，平成23年2月24日現在の報告数で，全国の還元データと若干異なる場合があります。
また，本情報での患者数は，届出医療機関所在地での集計で，患者の住所を示すものではありません。

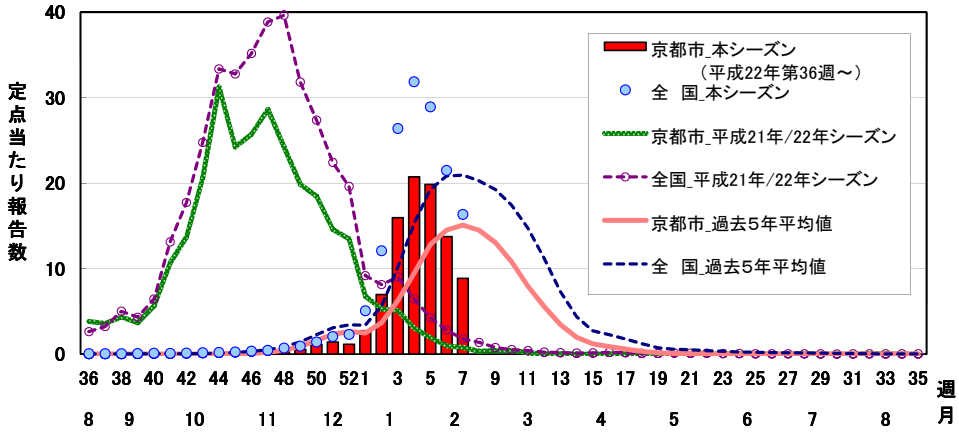
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週（第7週）と先週（第6週）の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

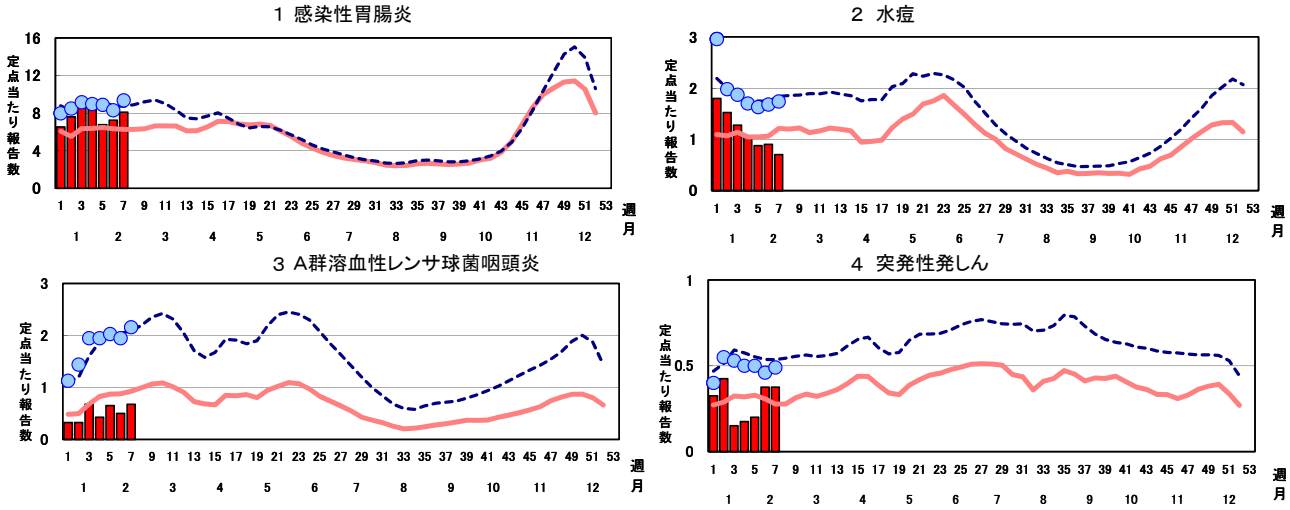
週	報告数（例）
第3週	1，069
第4週	1，389
第5週	1，330
第6週	921
第7週	594
累積報告数（第36週以降）	6，331



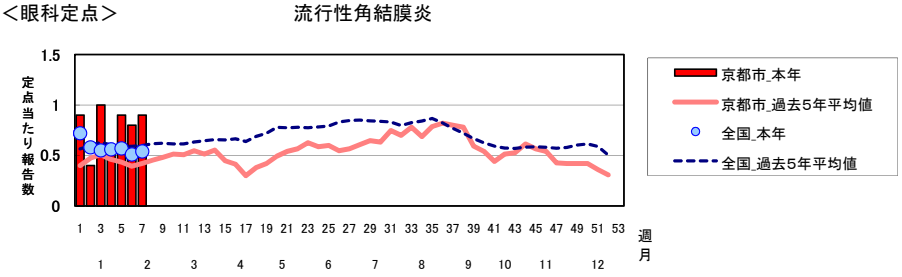
※平成21年／22年シーズンは，新型インフルエンザの発生により，例年と流行傾向が大きく異なるため，別に表記しています。

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

＜小児科定点＞



＜眼科定点＞

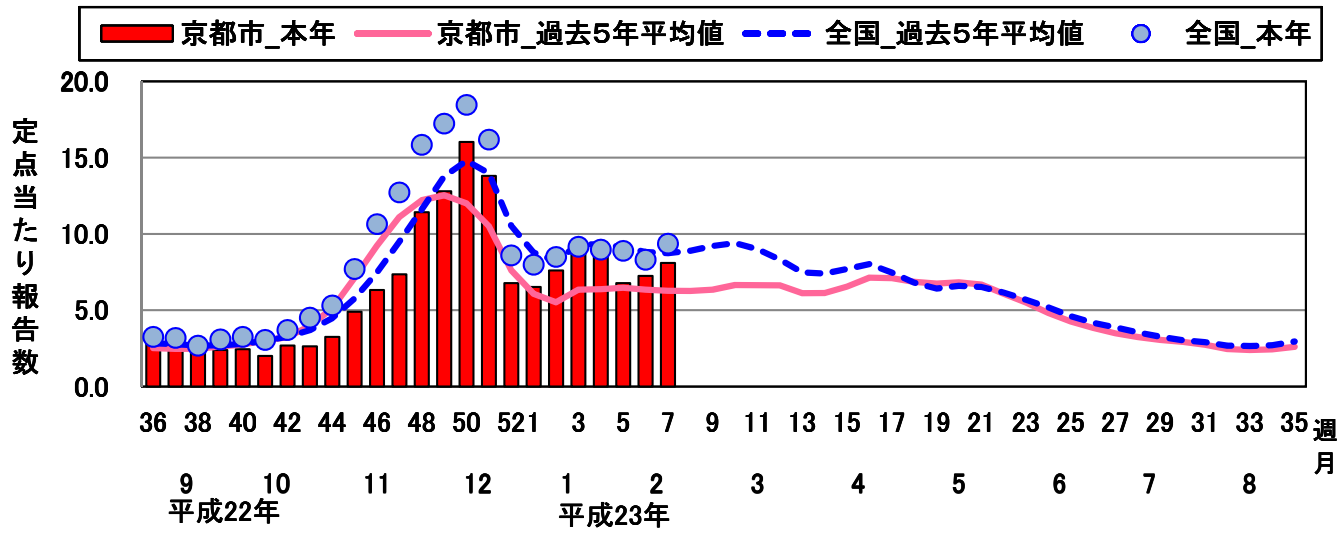


第7週（2月14日～2月20日）トピックス：＜感染性胃腸炎＞

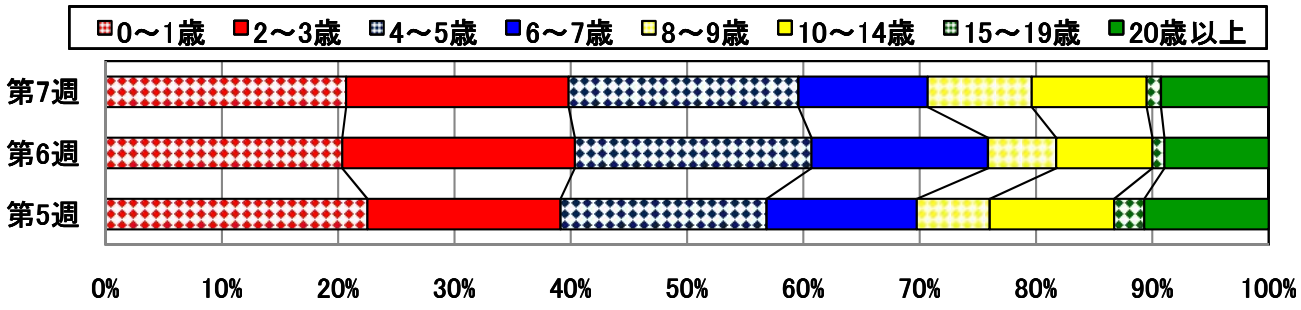
感染性胃腸炎の定点当たり報告数は，8.10（324例）です。今シーズン（平成22年第36週～）の推移をみると，第50週（12月13日～19日）をピークに減少した後，本年第2週以降，過去5年平均値を上回る報告数で増減しています。年齢群別割合では，5歳以下が60％近くを占めています。

全国の感染性胃腸炎関連のウイルス検出状況をみると，ノロウイルスGⅡが最も多く検出されていますが，感染性胃腸炎の春のピークの主な原因となるロタウイルスが，例年同様，この時期から増加し始めています。
京都市衛生環境研究所では，病原体定点において採取された感染性胃腸炎の検体から，本年に入り，ロタウイルスを3例（採取週：第3週 1例，第6週 2例，年齢：すべて1歳）検出しています。

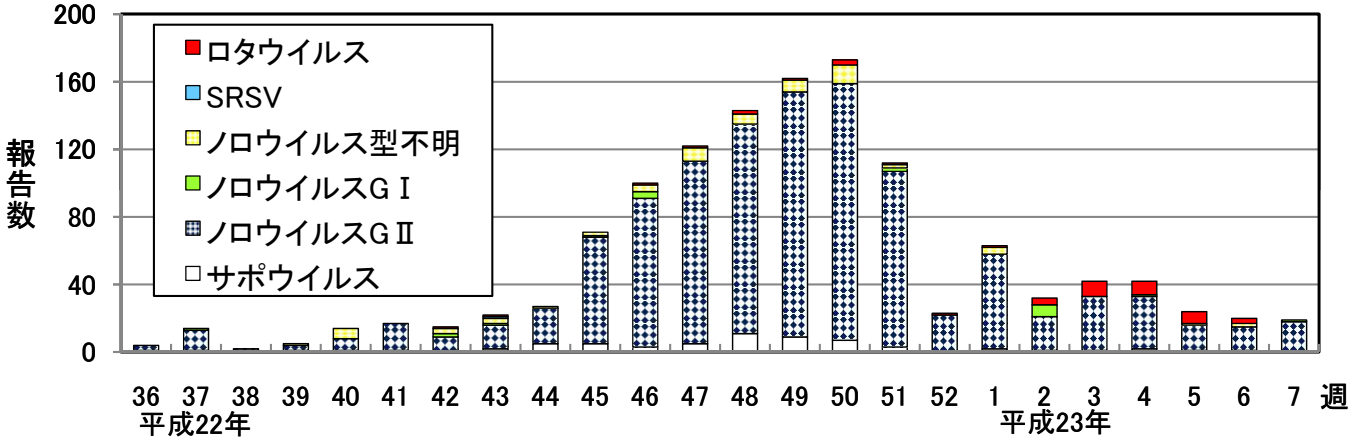
本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢群別割合



全国の地方衛生研究所からの感染性胃腸炎関連のウイルス検出状況



平成23年2月24日現在の病原微生物検出情報より抜粋